

子どもの未来応援団報告書

表題：真慶寺椿油プロジェクト

学校・団体名：井戸端会議実行委員会

活動グループ名：真慶寺椿油プロジェクトチーム

担当者・教諭名：監修 指導 真慶寺 住職 赤尾義道

活動人数：25人

(1) 活動を始めた理由

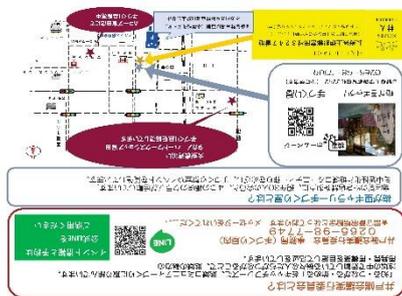
井戸端会議実行委員会では日頃から精神障がい者や不登校の子供たちを巻き込んだ地域活動を行っている。

椿油づくりは、真慶寺のご住職が趣味で寺に椿の木を植えて椿油を作り檀家に配っていたもので、ご住職から当委員会にこの活動を引き継いでいかないかとお声掛けいただき、活動を始めた。

子供からお年寄りまで誰もが楽しく参加できる活動であることから、子供や精神障がい者、お年寄りに参加してもらい、生産の喜びを経験し、楽しく交流する機会としたいと考えた。

(2) 活動内容・活動の写真

作成配布したチラシ





椿の山から村を見下ろす

真慶寺と全昌寺で椿の実を拾う



洗って、実を選定し干しておく



ミキサーで砕き、蒸して、
圧縮機械で油を絞る



コーヒーフィルターで
濾して、瓶に詰めて、
ラベルを貼って完成



(3) 活動結果

今年度はチラシを村内外に配布し、新聞報道で事前告知をしたため、宮田村外からも参加者があった。(飯島町・伊那市・南箕輪村など)不登校児や精神障がい者、知的障がい者も参加し、地域のみなどと一緒に作業ができた。

10月14日に真慶寺と全昌寺にて、椿の実拾いを実施(19人)

10月19日に商店街にある手づくり屋にて椿油絞りを実施(6人)

20日にも椿油絞りを実施(4人) 延べ参加者29人が参加した。

核家族化が進む社会の中で、子供からお年寄りまで、様々な人達の交流の場となった。「椿油づくり」という過程を通じて、多世代の交流の場を作り、子供たちの社会参加、働く楽しみ、生産することの喜びなどを経験する機会となり、子どもたちのもう一つの居場所にもなっている。

子供たちが、地域の高齢者や障がいを持つ当事者達と自然に楽しく交流できる良い企画である。